

## 教育長定例記者会見 会見録

日時：令和元年6月4日（火） 16時00分～

場所：教育委員室

### 発表項目

- ・令和元年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修について（発表）

### 質疑事項

- ・通学路の安全対策について

### 発表項目

それでは、私の方から1件発表させていただきます。お手元にあるかと思いますが、「令和元年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修」の開催についてでございます。これは、平成29年度から本県で実施している「外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修」というのは、平成28年3月に国の「政府関係機関移転基本方針」が決定されて、三重県で実施することとなったものです。3回目となる今年度は、これまで以上に指導者の養成に力をおいて、昨年度まで管理者用と指導者用の2コースだったものを、より実践的な指導者養成コースとして一本化して、実施をします。

また、1、2回目と実施しておりました「先進校視察」というのは実績が積み重なってきたということもあるので、今年度はより議論を深めるためにということで、「実践発表」ということにさせていただきました。これは県内の県立学校や市教育委員会等が先進的な実践を発表して、参加者それぞれの地域や学校の課題について解決につながるようという協議を行うものでございます。

日程については、ここに書いてありますとおり6月18日（火）から6月21日（金）までの4日間で、会場は、三重県総合教育センターで行います。参加者は、全国の41都道府県18政令指定都市の学校関係者及び教育委員会の指導主事等で、124名の参加を予定しております。4日間の講義・演習をとおして得た学びをもとに、課題に応じた研修プランを作成して、各地域で実践につなげてまいります。本研修の実施をとおして、本県教員の指導力・実践力の向上とともに、外国人児童生徒教育の取組が全国各地でさらに推進されることを期待しておりますので、当日の様子もぜひ取材いただきますようお願いしたいという風に思っています。このように、三重県と同じような研修をしていますのが秋田県と富山県と福井県で、このように国と連携して研修を実施している県がございます。以上です。

## 発表項目に関する質疑

### ○令和元年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修について（発表）

（質）この養成研修なんですけど、管理者と指導者を一体にしたというのが新しい点と話をされていたんですけども、どのような背景があって一本化したのですか。どれでどういったメリットがあるのですか。

（答）より実践に近い指導者といったところに力点をおくということで進めたものでございますけれども。課長、もう少し詳しく説明をお願いします。

（答 研修企画・支援課）一本化した背景には、入管法の改正等もかかわってくるんですが、今後も外国人児童生徒が増え続けるであろうということが予測されますので、外国人児童生徒が学校に来たときにですね、指導できるような指導者を養成することが喫緊の課題だということで、国の方も認識してまして、指導者養成に特化してということで今年度は一本化しました。

（質）あと、国と協力してこのような研修会を開催しているのは、秋田、富山もあって、あと三重と3県ですか。

（答）秋田、富山、福井、三重の4つですね。秋田は「言語活動指導者養成研修」、富山が「キャリア教育指導者養成研修」、福井が「小学校英語指導者養成研修」ということです。

（質）国と協力してやっているのは、どういった背景ですか。

（答）一番最初に申し上げましたように、国の機関を地域に移転しようという、例えば省庁とか、それから徳島で消費者庁とか色んな話があったところなんですけど、その一環として、三重県では外国人の生徒が多いし、色んな教育をやっているということで、誘致という言葉が正しいかと思うのですが、三重県でこの外国人に対する指導者の研修を持ってきてくださいということで要請、要望してそれが実現したというのが背景にございます。

（質）その誘致の動機を教えてください。

（答）やはり三重県は外国人児童生徒が非常に多いということと、やはりそれぞれの市町教育委員会においても児童生徒が多いから、教育研修というのが充実しているとか自負もあったので、ぜひ来てくださいということで誘致をしました。

（質）外国人の児童生徒が多いということと、研修への自負を持っていることがどのように開催と結びついたのでですか。

（答）そういう実績があるので、三重県に来ていただければ、より全国の方々にも実践例を含めて、より質の高い研修が受けていただけますよというPRですね、そこから始まっています。

（質）いつ頃から要望をしていたのですか。

（答 研修企画・支援課）要望は、平成27年度からです。平成27年度に「まち・ひと・くらし」が始まりまして、一年間かけて要望をして、平成28年3月に決定されました。

## その他の項目に関する質疑

### ○通学路の安全対策について

(質) 先週川崎で登校中にスクールバスを待っている児童・保護者の方が刺されて亡くなるという痛ましい事件がありましたけれども、それを受けて県教委として通知を行うという話が以前あったと思いますが、通知をしたかどうかというのを踏まえて、新たに県教委として対応されたものはありますか。

(答) 通知以外にということですか。

(質) その詳細が決まっていたら、それもお願いします。

(答) 通知は5月30日の日に、市町教育委員会に発出いたしました。それから、県立学校にも発出いたしました。それともう一つは警察が今回、集団登校のところのパトロールとか、そういうことについても、一緒になってやってくださるということもございましたものですから、警察と連携をしながら地域の方にもご協力を得ながらやってくださいと、概ねそういった意味の通知をさせていただいております。もう一つは、これから文部科学省の大臣の発言とか、各社さんの報道の内容をみると、文部科学省としても何らかの策をとることを、予算のことを含めて言われておりますので、そういう情報をきちんととって、利用させていただくものがあればやりたいなと考えている状況です。それが一つと、それからやっぱり防犯教育ということで、子どもたちにも危険を回避する能力と、子どもにできるのかということはあるのですが、力をつけるために、もっと実践にあったような教育をしなければならないなということで、毎年そういったことをやっているんですけども、もっと早い時期に例えば警察の方にもお力添えを、あるいはアドバイスいただきながらそういうことができないかというのを、今企画している状況です。それが、大きな流れとしては県教委でやっているところです。

(質) 防犯教育ということで、今企画…

(答) 本当にどういった内容にしたらいいいのか、実践的に、こういうことが、事件が起きてしまいましたので、それから大津の交通安全のこともありますので、大津の事故とか川崎の事件をみて、どういった能力をつける研修がいいのか、今深く考えている最中です。

(質) それは本年度からということですか。

(答) いや、今までもやってきましたけれども、こんな痛ましい事件といえますか、こんなことが起きてしまうと、本当に事件とか事故でという言葉では片づけられませんので、それを考えながら、実践に結び付けられるようなそういう内容にしたいということで、今考えているところです。

(質) 防犯の部分もそうですし、交通安全の部分も踏まえてということでもよろしいですか。

(答) はい、そうです。あと、もう一つ繰り返しになりますが、文科省の方でも色々と策が講じられてきたら、予算措置もどこかの報道に書いてあったと思いますので、そういうことを含めて、アンテナを高く張って、何か活用させていただけるものがあれば、情報をとってやっていきたいなと考えています。

(質) ちょっと重なる部分があると思うんですけど、交通の部分の新たな対策というの、今おっしゃられた教育の部分ということでよろしいですか。他に何かありますか。

(答) 川崎と大津では全く違いますが、防犯という意味合いでは重なる部分も多いので、一緒に考えていきたいという風に考えています。

(質) ちなみに、防犯教育というのは、小・中・高校、対象はどう考えていますか。

(答) 高校生は県立学校なので、特別支援の教育の方も含めて県がダイレクトに関わるものですが、小中学校は市町教育委員会と連携をしながら、伝えていってもらおうという方法をとっていききたいという風に考えています。

(質) 検討中ということですが、いつ頃までにできますか。

(答) 防犯教育をするのは、いつも年度後半なので、やっぱり夏ごろには、もう6月ですけれども、やっぱり夏休みくらいまでにはしたいとは思っていますが。

(答 生徒指導課) 防犯教室につきましては、その前段としまして、教員向けの講習会を実施させていただきますので、その教員向けの講習会を夏には開催したいということで計画しております。

(質) 教員向けの講習会も毎年行っているものですか。

(答 生徒指導課) 毎年実施させていただいていますが、今回のような事件を受けまして、教育長も言われたように、より実践的な内容で今年度は取り組みたいと考えています。

(質) 実践的などというのは、なかなか具体的な部分は難しいのかもしれませんが、何かありますか。

(答 生徒指導課) まだ、具体的にこういうものというものは、ここで言えるようなものはありませんが、子どもたちが机上で学んで終わるという形ではなくて、体験できるようなものを取り入れたものにしていききたいというようには考えています。

(答) 大津の方の事件を受けて、交通安全のことで何か補足するようなことがあれば。

(答 学校防災推進監) 文部科学省の「総合安全…事業」、今事業名を正確に申し上げられませんが(※1)、毎年その事業を受けて交通安全についてもモデル地域を設定して学校や地域と一緒に取り組んでおりますので、今年度も文部科学省に申請をしているところで、まだ採択待ちということですが、採択となりましたら学校や地域と一緒に取り組んで、またその取り組んだ結果を県内に広く普及させる事業を行っていく予定です。

(※1)「学校安全総合支援事業」【会見後確認、追記】

(質) 川崎の事件と大津の事故は異なりますよね。事件と事故を一体的に考えたいということですけども、どういう意味合いですか。事件の対策と事故の対策は別のものですよ。

(答) 一緒くたにしてしまうという風にとられると、ちょっと。

(質) ですが、一体的に議論していくんですよね。

(答) 防犯という意味合いにおいては、交通安全もそうですし、それから今回事件と申しますか事故にあわないということもそうなので、交通安全対策としては交通安全でマップを作ったりとか地道なことをやっていきますけど、事故についてはなかなかというところがあるんですけど、やっぱり地域の人のお力を借りてという意味合いでは、交通安全も同じですし、それから防犯についても同じですので、事件と交通事故とは全く違うものではあるものの、市町教育委員会との連携、それから警察との連携、そんな風に連携しながらみんなでやっていくということについては同じになると思います。方策が一つ、一緒のものになるというものではなくて、一つ一つ丁寧にやっていくつもりではございます。

(質) より実践的な内容で取り組みたいとするのであれば、事故、事件それぞれにおいて分析して対応していかないといけないと思いますが、どうでしょうか。

(答 生徒指導課) 防犯教室とは別に、交通安全教室も、毎年これも実施しています。交通安全教室の部分も、防犯教室の場合と同じで、前段として教員向けの講習会を開催していますので、そこで危険個所を予測するような力であったり、そういうものを回避する力であったり、そういうものを実践的に身に付けられる内容を取り入れて、今年度は実施していきたいなということで、交通安全教室の方も計画させていただいております。

(質) 教育長の意向としては、防犯も交通安全もそれぞれに対する教室をより実践的に見直していけるように考えたいということではないですか。

(答) そうです。時期的に同じなものですから、すいません。私の説明がこれは至らなかったところですけど。もちろん、交通安全とああいふ風に事件から身を守れるかどうかは分かりませんが、全く違う事象なので、それを一緒にたにはとても考えられないので、一つ一つ教室も、それから教員の研修も、それから地域へのお願いというものも、別々にやっていきたいと思っておりますので、丁寧にそこはしていきたいと思っております。

(質) これまでの教室で、聞き取りと申しますかどんな内容か調べられたと思っておりますが、どういう点が実践性に欠けると申しますか、課題があると思っておりますか。

(答 生徒指導課) 全ての学校でということではないんですけども、体験的な内容にやや欠けるところがあったのかなという風に思っています。ただ、実際に外に出て何かをするということは難しいところもありますので、危険箇所の写真を示しながら子供たちに考えさせるとか、そういうような形でより実践に近い、生活場面に近い状況で考えさせるような取組をさせていただきたいと思っております。

(答) 一つの例としては、実際に道路でと、外には出れないですから、例えば学校の中で立体的と申しますか、そういうこともやってほしいなという願望はございます。

(質) この前通知の関係で尋ねたら、通知を受けた側からのリアクション、通知を受けてどうするかとか、どう考えているかの聞き取りを意図的にする予定はないとのことだったんですが。対策をしていくにあたっては、各学校の教員がどのような課題認識をしており、どういうことで悩んでいたとか、対策を求めているのかとか、状況を聞き取れない限り対策は難しいと思っております。

(答) それは、調査様式を作って、アンケート形式みたいなもので聞き取るということではなくて。校長会の場合であるとか、研修の場合とか、そういうところでは話をさせてもらってリアクションの声を聴かなければならないと思っておりますし、コンプライアンスの会議とかもやっているの、実際にどういうリアクションだったのかということも聴く機会は決して少なくはないと思っておりますので。個別に、適宜聞き取るというのはきちんとしていかなければならない。それによって、次のどのような対策がというのがあるかと思っておりますし、また市町教育長会議とかもございまして、そういうところでも説明をしながらリアクションというのは必ず吸い取りながらやっていきたいという風に思っています。調査でアンケートの形式にすると、それはそれでということになりますので、決して軽視している訳ではありませんが。

(質) 校長会などで現場の声を聴いたうえでそれを反映させるということですね。

(答) そうです。

(以上) 16時20分 終了